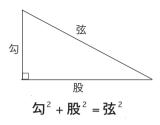
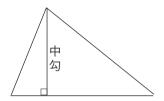
算額の術解

【術解のための予備知識】

(1) ピタゴラスの定理を和算では〈勾股弦の術〉といいます.

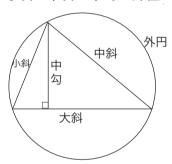


(2) 三角形の頂点から対辺に下ろした垂線を〈中勾〉といいます.



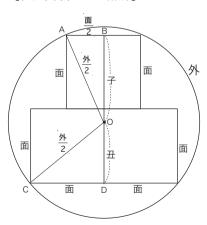
(3) 三角形の二辺と中勾、外接円について次の関係もよく使います。現在の正弦定理にあたるものです。

小斜×中斜=中勾×外径



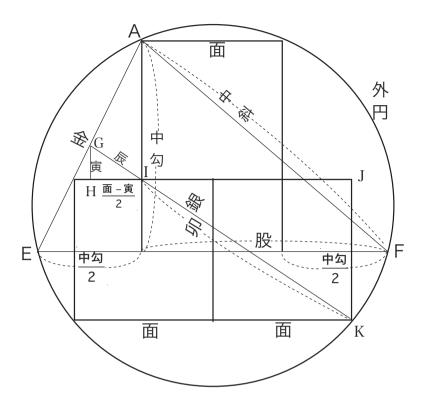
和算では円径は直径を表すので注意して下さい. 外径を外,正方形の一辺を面,また図のように名前を付けます.

【佐久間鑽による術解】



よって
$$\frac{4}{2} = \sqrt{\left(\frac{19}{16} \text{ m}\right)^2 + \frac{\text{m}^2}{4}} = \frac{5\sqrt{17}}{16} \text{ m}$$

$$\therefore \quad \mathfrak{R} = \frac{5}{8}\sqrt{17} \, \overline{\mathrm{m}}$$



$$p = \frac{2}{\sqrt{5}} \, \text{$\stackrel{\cdot}{x}$}, \qquad p = \vec{m} + \frac{\hat{\varpi}}{\sqrt{5}}$$

中斜² = 中勾² + 股² = 金² +
$$\frac{2\sqrt{5}}{5}$$
面金 + 面²

 $\triangle AEF$ に予備知識 (3) を使い 中斜 \times 金 = 中勾 \times 外 これを自乗して中斜2,外2を代入して

平方に開き $\sqrt{5}$ 金 + 面 = $\frac{19}{4}$ 面

$$\therefore \quad \vec{\mathbf{m}} = \frac{4}{3\sqrt{5}} \hat{\mathbf{x}}$$

$$\therefore \quad \mathbf{g} = \frac{\mathbf{m}}{4} = \frac{\mathbf{m}}{3\sqrt{5}}$$

さらに,卯 =
$$\frac{\sqrt{13}}{2}$$
面 = $\frac{2\sqrt{13}}{3\sqrt{5}}$ 金,辰 = $\frac{\sqrt{13}}{2}$ 寅 = $\frac{\sqrt{13}}{6\sqrt{5}}$ 金 に注意して,